

平成31(2019)年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい五代の子」の育成

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○授業の充実（楽しく、どの子にも分かる授業）
- (2) 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- (3) 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- (4) 道德教育の充実（豊かな心と道德的実践力の育成をめざす）
- (5) 交流や体験学習を通して、人と関わることの喜びや達成感、自己肯定感を育む活動の充実
- (6) ○決まりを守り、礼儀正しい生活ができる等、規範意識の育成

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびようWGS学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を、「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導者として」、継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置付け、道德教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図る。

- ☆つながりを通して学ぶ楽しさと居場所のある学校・子供の成長の視点に立った校務の見直し（分担と精選）

【学 習 指 導】

指導方法の工夫や問題解決的な学習等を取り入れた分かる授業を展開することで、学ぶ意欲や態度を育てるとともに基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

☆ 基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み、課題を解決し自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

【児 童 生 徒 指 導】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ 児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・保健指導・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

☆ 体力向上、健康安全教育、性教育、食に関する指導等との関連を図りながら、生涯にわたって心身ともに健康な生活を意識していける児童を育成する。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 88.1% ↑ (87.1%) を示し、数値指標 80%を上回っている。保護者は91.0% ↑ (85.6%)、教職員は97.2% ↑ (89.2%)であった。 【次年度の方針】 ・漢字の小テスト、まとめテストや算数の授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。また、計画的な朝の学習や長期休業、毎日の宿題を通して、漢字・計算練習を充実させ、基礎的な学力の向上を図る。 ・学習問題からまとめまでを構造的に板書し、ノートとの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。 ・単元を通した学習課題を設定し、ペア学習やグループ学習など、児童が意欲的に学習に取り組める学習形態を工夫しながら問題解決的な学習を仕組んでいく。
		② ノートの記入を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。	B	
		③ 学習課題や学習形態を工夫し、考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合うことができるようにする。	B	
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 特別の教科道德の授業の充実を図り、周囲の人の気持ちや思いを考えて行動することができるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 81.9%で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・特別の教科道德の授業の充実を図るとともに、実践した資料等は学年ごとに保管、整理し、いつでも活用できるようにする。 ・授業外においても、児童の思いやりを認め、褒めていく。また、感謝の気持ちを言葉として表すことの良さを伝えていくことで、思いやりの心を醸成していく。 ・全校一斉の道德の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。
		①「学習の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、自己評価をする。	B	
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定や周知を工夫するとともに、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、生活の振り返りを毎週末に行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 75.9% ↓ (79.3%) で、数値指標 80%以上を下回っているが、保護者 86.5% ↓ (89.0%)、地域住民 100% ↑ (86.7%)といずれも 80%を上回っている。 【次年度の方針】 ・「五代の子の一日」は、年度初めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りは、口頭でなく、振り返りカード

	③「五代の子10の約束」と「五代の子の一日」の提示を工夫し、教職員が足並みを揃えた指導に当たるとともに、学期終わりや長期休業前に児童の生活を振り返らせる機会を与え、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。 ④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会においての事例研究などの研修を実施し、児童理解に努める。 ⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間の連携を図る。 ⑥ 学級懇談会の充実や育成会・自治会等の協力により、家庭・地域との連携を強化する。	B B B B	を活用し、目に見える形で行えるよう工夫して実施する。 - 児童指導部会場で、児童できていることできていないことの共通理解を図り、きまりやマナーを守ることを全校的に推進していく。 - 職員会議後に、児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報を交換し、指導の徹底を図っていく。 - 五代小学校、新田小学校、若松原中学校の児童指導主任、生徒指導主任を中心に情報交換を行い、学校園全体できまりやマナーを守る意識を醸成していく。
A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。 ② 教職員が手本を示し、下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日（年7回）を実施する。	B A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 88.3%↓(89.5%)で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 - 時と場に応じたあいさつが上手にできている児童を称賛していくとともに、あいさつができていない児童にはその都度指導をしていく。 - 教師自身が手本を示し、根気よくあいさつをし続けることで、上手にあいさつできるよう全校的に推進していく。 - 各種たよりや学校ホームページ等にあいさつ運動の取り組みを紹介したり、あいさつを啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学期ごとに目標を記入したり、目標に向けて努力している様子を振り返ったりする時間を設け、目標を意識して生活することができるようにする。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 85.3%で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者は 72.9%であった。 【次年度の方針】 - 目標に向けて努力している様子を振り返る時間を設けるとともに、目標に向かって努力している児童に称賛を与えたり、児童の伸びを認める言葉掛けをしたりする。
A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める	B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 85.8%を示し、数値指標 80%以上を上回っていた。保護者は 86.7%、地域住民 100%であった。 【次年度の方針】 - 毎朝、健康観察とともに、ハンカチ・ティッシュを持っているか確認し、衛生面の指導を行う。給食後の歯磨き指導も必ず行い、全学年においてむし歯予防の指導を行う。 - 靴下や下着、冬季の長袖着用について、各学年便り等を通して、児童・保護者の意識を向上させる。 - スタンダードダイアリーを毎日確認し、家庭との連絡を密にするよう心掛ける。

	③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ④ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、緊急時を想定した児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	B B	・登校指導、下校指導、避難訓練等の安全に関する行事ごとに、児童へ安全指導、意識向上を心掛けるよう取り組んでいく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 仕事をしている身近な人にインタビューさせたり、夢をかなえたスポーツ選手等のニュースや新聞記事を紹介したりして、夢や目標をもって努力する良さを実感させる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.3%で数値指標 80%以上を上回っている。保護者の肯定的回答率は 72.9%であった。 【次年度の方針】 ・係活動の充実を図り、自分の得意なことを生かして学級のためになる活動に自主的・自発的に取り組めるようにする。 ・道徳で「夢や目標に向かって努力するすばらしさ」についての学習を系統的に扱う。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 外国語活動の授業の充実を図り、英語を積極的に使う態度を身に付けることができるようにする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 80.5%で数値指標 80%以上を上回っている。教職員の肯定的回答率は 85.7%であった。 【次年度の方針】 ・外国語活動の授業においては、ALTとの連携を図り、児童が興味・関心をもって取り組める課題を設定し、コミュニケーションの必要性や楽しさを実感できるような授業を行う。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳の授業等において地域でのボランティア活動や行事に参加する意義について、児童に教える。 ② 地域でのボランティア活動や行事の通知をホームページや各種たよりを通じて積極的に発信する。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 77.8%を示し、数値指標 80%以上を下回っている。保護者の肯定的回答率は 53.1%であった。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間で地域や宇都宮市のよさについて具体的に取る上げる。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】	① ICT機器の活用に関する情報交換やICT機器を活用した研究授業の実施により、ICT機器の積極的な活用を図る。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 74.9%で数値指標 80%以上を下回っている。教職員の肯定的回答率は 88.9%だが、保護者の肯定的回

児童アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② 図書室と連携を図った授業の年間指導計画への位置づけや図書ボランティアとの連携による読み聞かせにより、図書の積極的活用を図る。	B	答率は 67.8%であった。 【次年度の方針】 ・引き続き、積極的に ICT 機器の活用をしていく。プログラミング教育の観点からも、教科等の授業で ICT 機器を使う活動を再度確認し、適切に活用できるようにしていく。 ・引き続き、教科等の授業でも図書室の活用をしていく。調べ学習等で使用する図書を整理し、活用できるようにしていく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科や総合的な学習で、高齢者とのふれあいの場を多く設け、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもたせるようにする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 81.9%で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 84.9%、地域住民 90.0%といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 ・生活科や総合的な活動の前後に高齢者に対する接し方を指導したり、感謝の気持ちを持てるようふりかえりを行ったりする。 ・学校行事や特別の教科道徳でも、高齢者との接し方について考えさせ、誰に対しても思いやりの心をもって接することができるようにする。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 社会や総合的な学習の時間の学習を通して、環境問題に対する関心を高め、行動に結び付けることができるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 82.1%を示し、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・NIE タイムで「持続可能な社会」に関する記事を扱ったり、日常の話題として環境や防災に関する話題を学年に応じて取り上げたりする。
B1 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「おはなし会ぼけっと」の協力を得て、いじめ強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫していく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.8%で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・アンケートをもとに、計画的に教育相談を行い、児童一人一人の受容的な態度で受け止め、解消していく。
	② 教育相談月間「おはなしタイム」(年2回)の時間を確保し、充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。	B	・職員研修等を通して、学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学業指導に力を入れ、児童一人ひとりの良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行う。
	③ 学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。	B	・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、担任一人で抱え込まないようにする。
	④ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。	B	

目 指 す 学 校 の 姿		⑤ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。	B	
		⑥ 集会活動や五代コンサート等を実施し、児童が活躍できる場や認め合える場を設ける。	B	
	B2 児童は読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は読書が好きで、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 71.6%を示し、数値指標 80%以上には達していない。保護者は 71.4%，教職員は 94.3%，地域住民は 81.8%であった。 【次年度の方針】 ・音読カードや読書記録カードの活用により、読書の量的・質的向上を図る。読書の時間は「物語」を読むようにし、学年に応じた「必読図書」の読書を奨励する。 ・「必読図書」は教室に配置し、児童がより本に接しやすい環境を整える。 ・朝の読書の日は、時間までに本を選び着席して、準備させる。教職員もいっしょに読書をすることで、児童への啓発を図る。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本と触れ合える時間を増やしていく。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を長期休業中・読書週間に行い、家庭での読書習慣の形成の一助とする。 ・読書の記録をきちんと残し、こまめにチェックすることで、自分の読書を振り返ることができるようにする。
		② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入を心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営（図書だよりの内容の充実等）を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。	B	
		③ ボランティア（「おはなし会ほけつと」や「雀宮おはなし会」など）や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。	B	
		④ 校長、副校長をはじめ担任をもたない教員も朝の読書の時間に読み聞かせを行い、読書への関心・意欲を高める。	B	
		⑤ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通じたコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	B	
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 97.2%で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・職員会議後の情報交換会のときに全体へ声をかけ、担任一人が抱え込まないようにする。また、一部の先生に児童対応の負担がかからないよう、組織運営の仕方を見直す。 ・対応が後手に回らないよう、相談しやすい雰囲気醸成する。
		② 外部機関と連携し、全体で共通理解を図りながら、組織的な対応を行う。	B	
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%	① 道徳や学級活動、朝や帰りの会を活用し、「いじめは絶対に許さない」という意識を高める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 96.8%↑(96.3%)で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・いじめは決してあってはならないことだということを4月の学級開きで児童に伝えとともに、年間を通して言い続けることで、いじめを許さない雰囲気醸成する。 ・いじめに関するアンケートは今年度同様、5月、10月、12月、2月に実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。
		② いじめの早期発見・早期対応のため、5月、9月、11月、2月に「いじめにかんするアンケート」を実施し、面談を行い、いじめの早期発見と早期解決に努める。また、年2回の教育相談を行い、児童の不安感等の解消を図る。	B	

以上	③ 児童主体のいじめゼロ集会を実施することで、いじめについて深く考え、いじめをしない雰囲気醸成する。 ④ 「うつのみやいじめの宣言」を活用し、いじめの運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成するとともに、学年だよりやホームページにいじめゼロ強調月間(5月、9月)の取組を掲載する。	B A	・いじめの強化月間には、担任もいじめに関する本を読み聞かせできるように、市立図書館から一定期間借りるようにする。 ・学校での取り組みを各種便りや学校ホームページを通して発信する。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 児童一人一人の特徴を生かすことができる係活動を工夫したり、帰りの会等で一人一人の良さを認める場面を設けたりして、一人一人に居がいのある学級経営を行う。 ② 欠席した児童への電話連絡や家庭訪問を的確に実施し、家庭との連携を図る。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 93.1%で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・職員研修等を通して、学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学業指導に力を入れ、児童一人ひとりの良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行う。 ・事務連絡だけでなく、連絡帳や電話を通して児童の頑張りや良さを保護者に伝えていくことで、信頼関係を築く。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 社会や総合的な学習の時間の学習を通して、多様な文化について理解させるとともに、様々な考え方に対する寛容性を養い、受け入れることができるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 97.2%を示し、数値指標 80%以上を上回っており、90%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・社会や総合的な学習の時間、道徳などをはじめとして、全教育活動を通して、児童への多様な文化への理解、寛容性を育むように指導に取り組んでいく。また、教職員間での共通理解も図り、全教職員で対応できるように心がける。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 ③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 84.0%↓(88.3%)を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 88.3%↓(94.5%)、地域住民 100%→(100%)といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 ・友達と考えを交流する場を積極的に設定したり、係活動を活性化させたりし、「他者とのかわり」を大切に支援を、引き続き行っていく。 ・水曜日のロング昼休みになかよし班で活動する「なかよしタイム」を月に1回程度実施し、班の連携を深めるなど、なかよし班活動の充実を目指す。 ・児童がさらに充実した活動ができるよう、

	④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。	B	活動の目的を理解させ、「新学習指導要領」「宇都宮スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、諸計画を精選し、修正を加え実践していく。 ・それぞれの部会で話し合いを進め、小中で共通の取組ができるようにし、学力向上や健全育成が達成されるように努力する。また、相互乗り入れ授業等、事前の連絡を密に取り合い進めていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ③ 『『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上について』の「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 95.2%→(95.3%)で数値指標 80%以上を上回っている。保護者の肯定的回答率は 85.3%↑(84.2%)であった。 【次年度の方針】 ・学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、「学習問題」を明確にし、「まとめ」を意識した分かる授業を組み立てる。 ・まとめや振り返りの時間を確保し、授業の終末を充実させることで、学習内容の定着を図り、学力向上につなげる。 ・学校課題研究や「一人一授業」の実践により、教員間での学び合いを深められるようにする。 ・「分かる授業」チェックリストの活用により、自己評価を行い、授業力向上につなげられるようにする。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、効果的な学校スタッフの活用を図る。 ② スタッフ間の連携・協力を促進し、業務の重なりや非効率な点がないかを精査し、改善する。	B B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 86.1%↑(64.9%)を示し、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・掲示板を効果的に活用し、教職員が共通理解を密に図り、それぞれの役割を考えながら業務に取り組むようにする。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 掲示板やメールの活用に関する共通理解を図り、多忙な中でも、効率的かつ確実にコミュニケーションを図ることができる方法を工夫する。 ② 業務の効率化を推進し、コミュニケーションを図るのに必要な時間の確保に努める。	A B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 66.7%↑(40.5%)を示し、数値指標 80%以上を大きく下回っている。 【次年度の方針】 ・日課を工夫し、放課後の時間を増やす。 ・掲示板を効果的に活用し、会議や打合せを精選する。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 有意義な乗り入れ授業や中学校訪問になるよう、担当者をはじめ、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また、互いの授業を参観する機会を設けるなど、職員が相互理解を図ることができるようにする。 ② 学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。(運動会や陸上大会練習、そば打ち体験等)	A B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、90.4%↑(82.2%)を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 88.9%↑(75.7%)、保護者 84.7%↑(83.7%)、地域住民 100%↑(85.7%)といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 - 若松地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛け、相互理解を進め、小・中学校間の学習での接続を意識した連携を行っていく。 - 今後も「地域学校園あいさつ運動」の計画的実践を行う。中学生による運動会の校庭整備の手伝い等交流可能なものを検討していく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科や総合的な学習の時間を中心に地域の特徴や人材を生かした教育活動を展開し、地域に対する理解を深め、地域に対する愛着を深めることができるようにする。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、86.9%↓(89.0%)を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 91.7%↓(94.6%)、保護者 88.7%↓(92.2%)、地域住民 85.7%↑(80.0%)であった。 【次年度の方針】 - 依頼内容を明確にした「学習ボランティア依頼書」を作成し、地域コーディネーターを通して募集した地域や保護者の学習ボランティアとの打合せを密にして、効果的な学習に結び付けるとともに、ボランティアの方々への感謝の気持ちをもちさせる。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。 ② 「親子給食会」は、今年度の取り組みを充実させ継続実施する。「学校保健・給食合同委員会」では、給食試食会の充実を目指す。 ③ 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。	B B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、86.9%↓(89.0%)を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 91.7%↓(94.6%)、保護者 88.7%↓(92.2%)、地域住民 85.7%↑(80.0%)であった。 【次年度の方針】 - 今年度の取組をより定着させるとともに、家庭や地域、企業等と連携を図り、「出前授業」等で児童の学びにつなげるようにする。 「親子給食会」を引き続き実施し、給食に関する学校の取り組みについて保護者に理解を得るとともに、「食育」に関して家

	④ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	B	庭の協力をあおぐ。また、地域協議会委員が児童と一緒に給食を食べる機会を設ける等して児童の実態を知らせる。 ・低学年における幼・保・小連携の推進や、「五代夏まつり」、地域の行事等への参加を通して、児童に地域との関わりをもたせる。 ・地域協議会委員で登下校ルートについて話し合うなどして、家庭や地域と連携を密にし児童の安全確保に努める。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 安全点検を確実に実施し、校舎内外の整備や保全に努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率は、89.1%を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 83.8%、地域住民 100%といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 ・月に 1 度、教職員全員で校舎内外の安全点検を行っていることに加え、日頃より学校業務嘱託員が校内環境整備を行っており、引き続き実行していく。
A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ICT 機器の効率的・効果的保管方法を工夫し、ICT 機器の活用を図る。 ② 地域協議会学習支援ボランティア（図書ボランティア）と連携し、図書室の環境整備を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 74.9%で数値指標 80%以上を下回っている。保護者の肯定的回答率は 67.8%であった。 【次年度の方針】 ・プログラミングの学習で使用する教材の準備・確認をし、授業ですぐに使用できるようにしておく。 ・児童や教職員の意見や希望を取り入れながら、図書の計画的な購入・配架を行う。図書ボランティアと連携し、引き続き図書室の環境整備に努める。
B3 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明を心がける。 ② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 85.4%を示し、数値指標 80%を上回っている。保護者は 81.3%、教職員は 91.4%、地域住民は 100%であった。 【次年度の方針】 ・家庭学習についての資料を配付し、家庭学習の意義や効果を保護者に伝えることで、家庭と連携して学習習慣の形成を図る。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。

本校の特色・課題等	B4 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。 【数値目標】 児童アンケート「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 各他教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 93.5%を示し、数値指標 80%を上回っている。保護者は 82.5%，教職員は 88.6%，地域住民は 100%であった。 【次年度の方針】 ・各教科だけでなく、学校生活全般で言語活動の充実を図り、多様な手段で表現できる力を育成する。 ・学校課題の「学び合いの工夫」や「表現力の育成」とも関連させ、伝える力の育成を図る。
		② 各教科の関連を図りながら、児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。	B	
		③ 「発表のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取組む。	B	
	B5 道德教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校（高学年：道德や授業、体験活動など）は、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 特別の教科道德では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料、道德の教科書を有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 91.0%と、数値指標 80%を上回っている。保護者は 86.8%，地域住民は 100%，教職員は 97.1%だった。 【次年度の方針】 ・教科書教材だけでなく、必要に応じて教材の開発をしていく。実践した資料等は学年ごとに保管・整理し、いつでも活用できるようにする。 ・幼保小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。 ・なかよし班や縦割り清掃班などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。 ・全校一斉の道德の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。
		② 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。	B	
		③ 全校一斉の特別の教科道德の授業参観を実施する。	B	
		④ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。	B	
		⑤ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達といっしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。	B	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、多くの項目で肯定的回答の割合が80%を超えている。（保護者は24項目中16項目、地域住民は16項目中15項目、児童は25項目中20項目）
- ・教職員は、昨年度より肯定的回答が5%以上高くなった項目が4項目、5%以上低くなった項目はなかった。地域住民は、昨年度より5%以上高くなった項目が5項目あった。保護者は、昨年度より5%以上高くなった項目が1項目あり、5%以上低くなった項目が2項目あった。児童は、5%以上高くなった項目が1項目、5%以上低くなった項目はなかった。今年度は項目の入れ替えがあり、前年度の評価との比較ができない項目が多くなったが、評価が低くなったものについては真摯に受け止め、対応を検討していく。
- ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、肯定的な回答の割合が高かったものは「児童は楽しい学校生活を送っている」である。引き続き一人一人の特性に応じた教育支援を行うとともに、集会活動や五代コンサートを実施し、児童が活躍できる場や認め合える場を設ける。
- ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「児童生徒は進んで学習に取り組んでいる」91.0%、「児童は、楽しい学校生活を送っている」93.6%であり、学校の取組に対して一定の理解を示していることがうかがえる。
- ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が低いものは、「児童生徒は宇都宮の良さを知っている」53.1%である。本格的には次年度から始まる事業であり、今年度は十分な取組を進めることができず、理解を得られなかったと考えられる。今後、総合的な学習や社会の学習を通して宇都宮の良さを具体的に取り上げる。
- ・「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」は保護者 74.5%，地域住民 78.6%，児童 88.3%，教職員 75.0%だった。

児童会を中心に、全職員共通理解の下、指導に取り組んでおり、「あいさつ運動」として学級ごとに分担を決めて、朝の昇降口前で実施した。また、あいさつカードを配るなどの工夫もしている。若松原地域学校園で「あいさつの日」として、月に1回程度、木曜日の朝に中学生がきて一緒にあいさつをしている。校長も学期に1度挨拶表彰を実施し、挨拶に対する意識を高めている。

- 「学校は、『小中一貫地域学校園』の取組を行っている」は保護者 84.7%、地域住民 100%、児童 90.4%、教職員 88.9%である。前年度と比較すると、肯定的回答の割合は上がっており、従来行ってきた地域学校園でのあいさつ運動などの特色ある活動や今年度から始めた若松原地域学校園カリキュラムマネジメントが評価されたと考えられ、こうした活動は今後も各学校の状況に応じて継続していく。
- ・「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」は、保護者 72.4%、地域住民 100%、児童 96.8%、教職員 100%で、地域住民・児童・教職員の肯定的回答の割合は高いが、保護者は低い。昨年度よりも 11.6 ポイント下がっている。児童も教職員もいじめ防止へ積極的に取り組んでいることを保護者に向けて発信し、学校での取組が分かるように発信していきたい。
 - ・児童の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」96.8%「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」93.1%「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人にいていねいに教えてくれる」95.2%、「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」(90.4%)「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる。」93.5%、「学校（道徳、授業、体験活動など）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」91.0%だった。児童は、教職員・保護者・地域の方々に見守られ、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。

7 学校関係者評価

- ・ここ数年、挨拶はしっかりできるようになってきており、子供たちをほめることも必要だ。
- ・先生も率先して挨拶を行い、子供たちを導いてほしい。
- ・教職員・保護者・地域住民の評価は高く、保護者の評価は低いことからいじめ防止の取組について保護者への周知が不足していることが考えられる。また、教室が落ち着かず、子供たちのトラブルを解消できないために、いじめに対する指導が行われていないと感じている保護者も居るのではないかと考えられる。今後も、いじめは絶対に許されない行為であるということを全職員が一丸となって指導するとともに、そのことを様々な機会を通じて家庭にも伝え、理解・協力を得るように努力を続けていってほしい。
- ・次年度から始まる宇都宮学の学習を通して、宇都宮の良さを児童に知らせていってほしい。
- ・小中が連携したあいさつ運動に加えて、今年度から小中のカリキュラムマネジメントを行っており、そうした取り組みが肯定的評価の増加につながっているのではないかと。
- ・使った物は元に戻し、使った場所は元通りにきれいにするというきまりやマナーの指導を徹底してほしい。
- ・清掃指導が行き届いていない場所があるので、指導を徹底してほしい。
- ・ボランティアへの連絡等を適切に行い、スムーズに支援に入れるように工夫してほしい。
- ・地域協議会における部会の役割を明確にして、各部の取組が活性化するような工夫をしてほしい。
- ・他地域の先進的な取組も参考にしながら、「感謝」の気持ちをベースにして、よりよい地域づくりを行ってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童会を中心としたあいさつ運動、小中で連携したあいさつ運動、校長表彰といった取組によりここ数年、児童の挨拶はよくなってきており、地域の方からそうした声をいただいていることも伝え、子供たちを励ますとともに、これからもこれまで行ってきた取組をしっかり続けていく。
 - ・いじめに関しては全職員が一丸となってその防止に取り組むとともに、そうした取組を家庭にも伝え、理解・協力を得るようにしていく。
 - ・次年度から本格実施となる総合的な学習や社会の授業で行う宇都宮学の学習を通して、宇都宮の良さを伝えていく。
- 運動会の水まき、五代フェスタへの若松原中学校吹奏楽部等の参加といった小中連携の取組の拡充や小中連携のカリキュラムマネジメントの作成といった試みを通して、一層の連携を図る。
- ・きまりやマナーについて課題を全職員で共有し、指導の徹底を図る。
 - ・清掃指導の方法を工夫改善する。
 - ・今年度はボランティア依頼書を改善したが、さらに、依頼方法や運用について、全職員で共通理解を図る。
 - ・地域協議会における部会の役割を明確にしたり、部会で話し合う時間を確保したりして、各部の取組を活性化する。